



標準的接種年齢と接種期間 ・ 日本小児科学会の考え方 ・ 注意事項

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
ポリオ (IPV)	不活化	①-②-③はそれぞれ20-56日 (3-8週) あける (注6) ③-④は6か月以上あけ、標準的には③終了後12-18か月の間に接種		・ 2012年8月31日以前にポリオ生ワクチン、または、ポリオ不活化ワクチンを接種し、接種が完了していない児への接種スケジュールは、厚生労働省ホームページを参照 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/leaflet_120601.pdf
ポリオ (IPV) 学童期以降の ポリオ予防目的		⑤ 5歳以上7歳未満	(注9) ポリオに対する抗体価が減衰する前に就学前の接種を推奨	
BCG	生	・ 12か月未満に接種 ・ 標準的には5-8か月未満に接種	結核の発生頻度の高い地域では、早期の接種が必要である	
麻疹・風疹混合 (MR)	生	① 1歳以上2歳未満 ② 5歳以上7歳未満 (注10) 小学校入学前の1年間		・ 麻疹曝露後の発症予防では、麻しんワクチンを生後6か月以降で接種可能、ただし、その場合、その接種は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
水痘	生	① 生後12-15か月 ② 1回目から6-12か月あける	(注11) 水痘未罹患で接種していない児に対して、積極的に2回接種を行う必要がある	・ 定期接種として、①-②の間は3か月以上あける ・ 13歳以上では、①-②の間を4週間以上あける (任意接種)
おたふくかぜ	生	① 1歳以上	(注12) 予防効果を確実にするために、2回接種が必要である ①は1歳を過ぎたら早期に接種、②はMRと同時期 (5歳以上7歳未満で小学校入学前の1年間) での接種を推奨する	